

開 議

○町田義昭議長 おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は、16番、鈴木新助議員の1名であります。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

なお、鈴木榮一農業委員会会長から本日の会議を欠席させてほしい旨の届け出があり、許可いたしましたので、ご報告いたします。

本日の会議は、配付しております議事日程第3号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○町田義昭議長 日程第1、市政一般に関する質問を昨日に引き続き行います。

それでは、順次ご指名いたします。

大沼 久議員の質問

○町田義昭議長 順位6番、議席番号11番、大沼久議員。

(11番大沼 久議員登壇)

○11番 大沼 久議員 おはようございます。

内谷市長の再選につきましては、心よりお祝いを申し上げるところでございます。私もお支持をいたしますので、頑張っておやりくださいと申し上げたいと思います。

公示日でございますが、7時30分ごろ祈願祭に出席すべく準備しておりましたんですが、「日

曜日でないと会えないから」といって来客があり、「市長選で出ていかなきゃならないのでちょっと待ってくれ」と言ったんですが、「どうせ選挙になんねんだべ」と言われて引きとめられ、つつい祈願祭には出席できなく、大変申しわけなく思っているところであります。

また、午後でありましたが、宣車が回ってこられるので多くの人に声かけをしながら応援してほしいと回りましたんですが、「選挙もないのに何で宣車が来るんだ」とか、「どうせ内谷市長に決まんなべ」というようなことで思ったように集めることができませんでした。

それから選挙戦の1日でありましたんですが、ほかの人にもいろいろ聞いてみたんですが、「何で選挙あんなや」とか「何の選挙あんなや」まで言われました。実に盛り上がらない戦いだったような気がしてなりません。

そしてあの立派に今回の選挙のために後援会へのご参加のお願い、がんばろう長井新聞、選挙用パンフ、討議資料を準備されましたのでありますが、これは今後どのようにお使いになるのか、余計なことかもしれませんが、心配でありません。

そして今回市長が訴えられた公約につきましては、市民の皆さんに深く浸透していないのではないかと、このように思って、当選のされた翌日からまた選挙運動が始まると言われておりますので、どうか「余った」などと言っては語弊ありますが、このような主張をなされたものを今後、市民の皆様に徹底されるようご活用願いたいものだと考えております。

このように選挙用の資料にもありましたし、また市長が座談会等でお使いになるようにつくられたスライドにもあったんですが、幸せを実感できるまち、「日本一幸せに暮らせるまち・長井」を目指してとあることから、3月定例会でも施政方針でお伺いしたところまたということで恐縮でございますが、質問をさせてもら

+

ところでございます。

このお訴えの中で一番多く使われている言葉は、閉塞感についてであります。どうも行政用語としては閉塞感などということを使うことが合わないのではないかというふうに考えてるところであります。現農林水産大臣であります鹿野道彦先生が自民党の閉塞感にさいなまれ新党みらいを結成したときは、閉塞感を訴えられました。そして最近新党を立ち上げた方々も皆さん様に閉塞感を訴えたような気がしてなりません。特に自民党に対する閉塞感ということであったのですが、私は何も自分に対しての閉塞感だと思っております。それはあるポストにつけないとか主義主張が通らないとかそんなときに使う言葉のように思えてなりません。

特に「疲弊した長井の閉塞感の打破」というようなことが出ております。この疲弊した長井の閉塞感の打破という言葉について、もう少しわかりやすく説明してほしいと思います。

私だけだろうと思いますが、このスライドが使われた説明の中に閉塞感の打破という言葉がありますが、このタイトルがどうも右肩下がりをしております。何か意図があるかどうか、その辺もお伺いをしたいところでございます。

行政の閉塞感というのは、あくまでもそれぞれの市にかかわる皆さんの特に政治に対する信頼がなくなったとき出てくる言葉のように思えてなりません。したがって、職員の皆さんとともに協働する行政を行えば市民の皆様にもわかりやすい行政になるのではなかろうか、このように考えております。

それでは、市民の皆様に関わりやすくするにはどうしたらいいのか。いろいろ考えてみたんですが、私が中学生のときに長井市役所に野球チームがありました。あのグレーのユニホームのりりしさにあこがれたものであります。そのような形で何か長井市役所というネームプレートをつけたそれぞれの場所での職員の皆さんの

行動があると市民も親近感を持つのではなかろうかと思えます。どうか市役所の職員の皆さんの中で、スポーツでも文芸でも結構だと思えますが、市役所という名前のついた何か考えられて市民の皆様と一緒にいろんな場所で行動をされれば信頼関係もまた別な面で出てくるのではなかろうかと思えますので、その辺のことについてもお伺いをしたいと思えます。

次に、3万人都市復活大作戦であります、これも先刻ご質問をいたしましたんですが、私はこれ以上人口を減らさない策をとらなければふやす策もとれないという観点で考えております。

先回は、世の波によって倒産による一家離散あるいは自殺等々にかかわる家族が離れていく、または誘致企業に勤められておってなかなかその企業が来れなくなって地元に戻れない、そういう方々が多くあるのではなかろうか、そしてその原因をつぶすにはどうしたらいいのかをお伺いいたしました。

そして今回のこの3万人都市復活大作戦の中には、全然そういう減った原因を追求する中身が何も感じられませんでした。先日であります、私の隣組から1戸なくなりました。人口は減らないと思えます、慈光園に入所されたそうでございますから。しかし、「後、戻ってこない」、こういうことで隣組にあいさつをされました。旧家であります。

一番何が原因かといいますと、「冬の雪片づけ嫌だべ」と、こういうことであります。まさにそのとおりだと思えます。人の動きを、長井に人を呼ぶことを考えるならば「長井市こそが雪の対策では日本一だ」という方策を考えてみてはどうでしょうか。都会の人に言われます。「春夏秋冬のうち冬なければな」と。そして「冬がなければおまえのところに行ってもいいんだけど」、こういう話もありました。そういうことでこの雪に対する対応策が一番の近々

の課題ではなかろうかと私は思います。この点について市長のお考えをお聞きいたします。

さらに交通網が整備されまして東京にはえらく近くなったように思いますが、都会の人がこちらに来るのには便利でしょうか。決してそうではございません。赤湯駅でおりたら最後、山形鉄道の時間の合間で待ってるならば別のところへ行っちゃうと、こういう方があるそうでございます。特に私の友人は、全国の鉄道を全部乗車して、エッセーも書いております。赤湯駅から山形鉄道に乗る、非常に嫌な思いをしたと。待ってる間何にもない。そして赤湯駅からほかへ行こうかと思ったんですが、それさえも列車時間が間に合わなかったと。そんなことでタクシーで長井駅まで来たそうであります。そして長井駅に着いたら、どこへ行ったらいいのか、これもわからない。「私がいるのではないか」と言ったんですが、「おまえのことなんか知らなかった、忘れてた」という話でありましたので、こんなことで実に都会へ出ていくのには利便性をうんと図ってるんですが、都会から来られる人の利便性というのはどのようなものでしょうか、この辺の考えについても市長にお伺いをしたいと思います。

それともう一つであります、「産業の振興によって人口増を図る」と言われておりますが、企業は利益が出なければできないわけですから、この利益の出る方法、つまり安い設備投資で大きなもうけができるというスタイルをどのようにとったらいいのか。あのようにもてはやされたマーク社が中国進出によって倒産というようなことになりましたわけですが、その中国マネーが私は動くと思ひましてタスパークホテル底地の売却に心配したところでありました。随所にすき間を見せれば忍び寄る手があるわけありますので、どうか周りを見ながら対応できるようなことを考えてほしいと思います。

私が一番好きな歌であります、星野哲郎作詞、米山正夫作曲、人生の応援歌「三百六十五歩のマーチ」であります、1日1歩、3日で3歩、3歩進んで2歩下がる、この精神を市長に持ってほしいと思います。

つたない質問であります、壇上からの質問にかえさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。（拍手）

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おはようございます。

大沼 久議員のご質問にお答えいたします。

大沼議員からは大変ご教示に富んだ励ましの言葉いただきました。初心に返りまして一生懸命努力してまいりますので、今後ともどうぞよろしくご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

大沼議員の方からは、大きく2点質問いただきました。

まず、最初の「日本一幸せに暮らせるまち・長井」を目指して、最近パワーポイントといひますか、スライドで市民の皆様にもちづくりについて話ししているが、その中で使われる閉塞感についてと、どういう使い方をしてるのかと。閉塞感という言葉は、余り市民の皆様には理解できないし、現状としては合わないのではないかというようなご質問でございました。

閉塞感についてですが、この間大沼議員にごらんいただいたときは伊佐沢地区の地区長会の総会だったと思います。時間の方ができるだけ短くということだったものですから20分ぐらいでお話しさせていただいたんですが、私としては市民の皆様にも市政の状況お話しするとき、やはりできるだけ幅広く紹介あるいは報告させていただいてご意見をいただきたいということから大体40分か50分ぐらいいただいで話させていただいてるんですが、大沼議員にお聞きいただいたときは20分ぐらいだったものですから、かなりはしょってしまつてちょっと意味が伝わ

+

らなかったのかなというふうにまず反省しています。

その中で私が閉塞感という使い方をしているのは、結局将来の見通しが立たない、あるいはそれぞれの企業であったり市民の皆様であったり、あるいは我々行政も努力はしてるんですが、八方ふさがりのような形でどうも市民の皆様にも夢や希望を感じ取っていただけるようなことがなかなか今できない状況だと。そういう意味で閉塞感を何とかして打破しなきゃいけないんじゃないかということでもあります。

そのスライドの中の全部をコピーして手元にもお渡ししてたんですが、その閉塞感というのが右肩下がりになってるということで、それについてはちょっと配慮が足りなかったなど。やっぱり右肩上がりにしなきゃいけなかったなど。反対方向に上げとかなきゃいけなかったなど。

それについては早速これからはそういったところも気をつけて市民の皆様に見ていただくようにしたいと思っておりますが、疲弊した長井の閉塞感の打破とは何かということなんですけれども、やはり長井の場合は、異論はあるかもしれませんが、少なくとも過去10年ぐらいの財政再建をまず克服しようということでやってきた政策の主なものというのは、結局緊縮財政、できるだけ今までやってたことも休ませてもらったり、できるだけ今までの規模からもう少し小さくして、とにかく財政をまず立て直そうという緊縮財政一本で来たわけですから、いわば守りでありまして、それだけではやはり財政はよくならないと。これからは税収が究極的には伸びる、すなわち民間、市民の皆様の所得が上がるような産業政策、振興策をもっともっとやんなきゃいけないということを私としては訴えたかったと。そして閉塞感の打破としてどんなことをやってきたかということをお願いしたところでございます。

それはなかなかすぐに、これは特に経済の再

生あるいは産業振興というのは1年や2年でそんな簡単にまた右肩上がりになるということは難しいわけでありましてけれども、特に例えば菜なポートですね、市民直売所、ああいったものも市民の皆様からのご提案を実現化してみようと。結果としてまだ緒についたばかりではございますけれども、心配された現在ある3つの直売所が余りマイナスの影響受けなかったと。JAの愛菜館も売り上げが伸びた。虹の駅も伸びたと。伊佐沢については横ばいだというふうに聞いておりますが、そして結果として菜なポートの今五千二、三百万円ぐらいの売り上げまでいきましたけれども、その部分がふえたという格好になってます。果たしてその5,000万円がじゃあ、どこの部分売り上げが減ったのかということの分析もこれからしなきゃいけないんですが、確かに市内のスーパーとかそういったところの売り上げ落ちてるかもしれません。あともう少なくなりましたけれども、やっぱり八百屋さんもあるわけですから、その辺の影響もあったかもしれませんけれども、そういったことで何か新たな取り組みをすることによって打破する、あるいは中心市街地がもう空き店舗だらけだと。県内一の商店街の空き店舗率という不名誉な1位なわけですけども、それも打破するために、これは先のことになりますけれども、何とか街路事業とか、あるいは商業活性化事業とかそういったものなんかを活用することによって先が見通し立てるようなそんなことを何とかできないかということで街路事業の採択に努力して、おかげさまで地元の努力によってこれが採択になったとか、そういったことを申し上げたかったと。

あとは我々市民自身がどうも最近暗いと、長井はだめだというような自信喪失というか、希望を持ってないような、誇りを持ってないような状況になっておりますので、そのために例えばあやめの100周年のときに今まで以上の予算も議会から承認いただいているいろんなことをさせてい

ただいたと。長井踊りの復活などもその一つだったんじゃないかなと、そんなことを私としては訴えたかったと。それを閉塞感の打破だというふうなことで使わせていただきました。

今の日本も同じように、やはり閉塞感に満ちてると、八方ふさがりだとテレビなどを見てても使う方が結構多いです。それはやはりこれは民主党政権だから、自民政権だからということではなくて、今の日本の置かれてる状況が極めて厳しい。円高に苦しみ、デフレに苦しみ、そして政治不信といいますか、外からの外交的ないろんな圧力、いわゆる内憂外患みたいな格好になってますんで、そんな状況も私は市民の皆さんには大体理解していただけるのかなというふうに思ってるところでございます。なお、議員の方からいろいろご提言などもいただければと思います。

その中で市役所の職員が頑張っていると、市民の前でそういった活動もしてほしいし、あと見えるような形で、例えばユニホームみたいなものも考えたらどうだということでもあります。おっしゃるとおりでございますして、例えば今各課で作業着を持ってるところもあります。作業着持ってない課もあるわけですけども、その中でやっぱり土日とか、あるいは何かの行事の際にボランティアをすると。それを私服じゃなくて、「あっ、市の職員だ」とわかるように、消防団の活動服みたいな形で、今292名しかいないわけですから、その分を何とかそろえて、そういったことで日ごろボランティアも含めて市民にアピールしろというようなことも確かにいいアイデアだなというふうに思いますんで、ぜひ予算の兼ね合いもありますが、検討してまいりたいと思います。

そして何よりも大沼議員からは、とにかく市民と一緒に市役所の職員がいろんな立場立場で頑張れということだと思いますので、なお一層そういったボランティア活動も含めて努

力するようにしてまいりたいと思います。

次に、2点目の3万人都市復活大作戦についてということで、この中で大沼議員からも具体的ないろんなご提言をいただきました。

人口が減った原因の分析が足りないのではないかということについては、おっしゃるとおりでして、大体大まかな原因とか、それはつかんでるわけですが、じゃあ具体的に分析したかという、やはりまだまだ分析が足りませんので、ぜひ今後、23年度中にはある程度具体的なものを分析しながら、その解決方法をじゃあどうするかという糸口が見えるような形でこれ整理しなきゃいけないというふうに思ってます。

その中で大沼議員は、雪が大きな原因の一つじゃないかというのは、ごもっともであります。やはり特に今、長井に都会から移るという方で一番の問題は、おっしゃるように雪だと私も思ってます。特に戸別、一戸建ての住宅でそれを買って、あるいは借りて住むといった場合には、本当に大変だと思います、都会の人は。たとえこの長井の出身、置賜の出身の人でも数十年ぶりにこの長井で一シーズン、冬の間ですね、生活するというのは、本当に雪との闘いで大変だと思います。

しかし、最近山形県内でもたくさん出てますが、マンションですね、いわゆる集合住宅の場合は余りそういったことを感じないと思います。米沢なんかも集合住宅、マンションがいっぱいふえてますけども、あそこはどちらかというとも都会の人向け、あるいは地元でももう雪片づけ嫌だという人には最適です。あと大体大きいマンションになりますと管理人もおりますので、全部管理、掃除もしてくれるということですから、そういった意味では長井も都会の人から、長井出身の人が例えば戻ってくる、あるいはもともと長井に移りたいと、移ってみてもいいなという人のためにそういった集合住宅なども民間の皆様とも協力体制をとりながらぜひそう

+

いったことでの需要の掘り起こしをすることもいいことではないかなと思ってます。

それからフラワー長井線の話で友人の方のお話をしていただきましたけども、おっしゃるように赤湯駅で私も待っていると、たかが10分、15分ですが、何にもすることないですね。見るものが真っ暗で何にもない、非常に寂しい思いをして、私なんかはたばこを吸いたい方ですんでちょうどいい時間なんですけども、たばこ吸わない人とか普通の人でしたらやっぱり何か寂しいし、この10分、15分がもったいない、あるいは大体30分以内ぐらいなんですけど、30分というたら本当に貴重な時間もったいないなというふうに思いますので、これはぜひ山形鉄道の方にも伝えながら、その辺の何か工夫をして、待ち時間にも苦にならない何か工夫、アイデアを出してもらおうようお願いしてみたいというふうに思います。

あとは長井に遊びにいらしたときのいろんな案内とか、あとどういうところでおいしい食事ができるかとか、何か長井のものを買いたいんだけど、お土産はどこで買えばいいとか、どこに泊まればいいのかとか、そういった案内がかなり欠けてる部分がありまして、これらについてはやはり観光協会、旅館組合とかそれぞれの商店街とか今、一生懸命頑張らせていただいておりますが、やはりまだまだこちらの長井の人からの見た目での取り組みであって、お客様の立場に立った、観光客の立場に立った視点での配慮がまだまだ足りないと思いますので、その辺についてはこれからも努力して一緒になって取り組んでまいりたいというふうに思います。以上でございます。大変ありがとうございました。

○町田義昭議長 11番、大沼 久議員。

○11番 大沼 久議員 最近幸福度でなくて最小不幸社会の尺度というのがあるそうであります。そんなことを思ったときに最小不幸とは、やっぱり雪だと思えます。何も好むと好まざ

るとにかかわらず雪降ります。雪の対策ができなければ、ここに住んでる人でもやはり幸福ということに到達することにはならないと思うんです。皆さんがマンションに入るわけいきませんから。

ただ、私が先ほど言った方は、「慈光園に入るもんだから後さっぱり心配すつことねえや」と、こういう具体的な話でございました。この方には息子さんがいるわけなんですけども、この人は中央地区に住所を持っておられます、家を持っておられますので、自分の方で精いっぱいだから伊佐沢の私たちの班のところの家は「冬の間ちゃんと閉鎖しとくから大丈夫だ」と、こういう話でありました。つまり皆さん雪で悩むんです。年とってからなんか雪とんでもない。要らないぐらいです。だけど気候風土的にこれを守らなきゃいけないし、必ずあるものでありますから、何とか行政の方でこれの手当てを真剣に考えていくと。

例えば除雪機なんて年々あれ値上がりしてます。除雪機ですね。農機具も言いたいんですが、今ごろ機械が値上がりしてるものなんてないんですよ。すべて車にしてもコストダウンなんです。そういう時期に値上がりしてるものというのは、価格破壊が起こらないのは、農機具やそういう除雪機なんです。建設機材なんです。したがって、こういうところにまだまだ関心を皆さん向けなければいけないと私は思うんですが、これはひとえに長井市云々の問題でないと思いますので、この辺を訴える考えを市長に各県や国へ何とかしてこの雪国の対応策の中で必要なこととして訴えてほしいというふうに私は思いますけれども、いかがですか。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ただいま大沼議員がおっしゃった最小不幸をなくすということなんですけど、これは現在の菅総理がおっしゃった言葉で、その前の鳩山総理のときにはそういうニュアンスで

はなくて、やっぱり幸せという言葉を使ってたように思います。何か考え方が少し後ろ向きだなというふうに思ってますが、最小不幸をなくすということは、いわゆるセーフティーネットをしっかりと守りたいんだろうなというふうに思いました。

今回大沼議員からは、最小不幸というのはこちら雪国にとってみてはまず雪だということで、除雪機とかそういったお話がございました。確かに最近の除雪機なんかも、私なんか買えないんですけども、結構高いもんですから、馬力が大きくなって、昔は馬力が小さかったんですね。ところが馬力が大きくなったもんですから、それじゃないと飛ばないということで何か除雪機も大型化してきて本格的なものになったんじゃないかなと、家庭用の除雪機ですけども、そのように思ってます、その対策としては、これは変な話なんだろうけども、例えばじゃあ長井市で共同購入をしましょうと。市で募って、前に家庭用の火災報知機、これを隣町なんかは結構1個1,000円とか2,000円とかって補助したんですね。しかし、長井はそんなことできないから共同購入すれば安くできるんじゃないかということで地区長さんをお願いして募っていただいて、2回ほど去年、おととしとやりましたけども、かなり値段下がりましたんで、同じように除雪機もそういうことで市としてできることは地区長さんあたりと相談してやろうということになったら可能性としてあるのかなとはいうふうに思いますが、なかなか市で助成するというのは難しいかなと、個人にですね、そういうふうに思ってます。

大沼議員からあった国へのいろんな支援の依頼なんですけど、今危惧してるのは国交省の予算が平成22年度は10%から15%ぐらい物によっては減らされたんですが、ことさらにマイナス10%のシーリング、23年度においてかけられます。やっぱり国交省の方の現場に聞きますと、

10%ぐらい減らされたんであれば新規事業、特に道路関係にしても何にしてもそうなんですけど、それすべてストップだと。あと今進んでる事業も完成間近のところやっぱり集中して予算をかけなきゃとてもできない状況だと。あとはこれから減らされたら維持費にやっぱり手をつけざるを得ないということで、来年度から、今年度も少しやるそうなんですけども、今までこれは国道ですね、国交省の場合は、国直轄の国道維持に除雪の回数を減らすとか融雪剤を今まで10回まいたところを7回にするとか5回にするとかそういうことすると言ってるんですね。

しかし、我々の声は、いろんなところで東北市長会であったり市議会議長会でも言っていたいてると思うんですが、理解してもらえない。もうむだだということで削られるという部分が多々あるもんですから、本当に困ったもんだなというふうに思ってます。やっぱり大沼議員がおっしゃるように、快適な生活を冬するときには、まず道路ですよ。それから子供たちの通学路、それを確保するにも今まで以上の予算をかけなきゃいけないということは、これからどんどん財政のパイが小さくなる中で除雪費をふやすというのは大変だなと。一方で、お年寄りだけの世帯等がふえてきますんで、きめ細かな冬の対策もしなきゃいけない。雪おろしも対応しなきゃいけないとか、またさまざまな扶助費がふえてくる中でとにかく国に対しては雪対策についてやはり実態をきちんとまた訴えながら私も市長会等々で訴えてまいりたいというふうに思います。以上です。

○町田義昭議長 11番、大沼 久議員。

○11番 大沼 久議員 私もサッカーを通じながら日本地下水の方と知ってるわけでありまして、日本地下水は融雪については恐らく日本一だと思います。そういうところといろんなことを協議しながら、水の長井を標榜しているように水を使った融雪とか、ほかの資源を使っ

+

たところの融雪とか、そういうことも積極的に取り入れていかなければならないと思うんです。

それからまた、人口をふやす作戦の中でいかに長井に来ていただくかということも大切なことだと思いますが、今、長井に一番来られてるのは何だと思いますか。これ差しさわりありますのであんまり言えませんが、佐々木謙二議員に後で許しを得ますけども、長井自動車学校なんです。長井自動車学校の生徒さんは、大概県外の人なんです。その人たちがたとえ1週間であろうと10日であろうとここに在籍されたら、これをリピーターになってもらうのが最大のテーマだと思うんです。そういうことで身近にあるものを使いながらも少し何か新しい展開ができないか、これどうですか。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 大沼議員がおっしゃるように、私もまちなかで例えば夏休みとか春休みが多いんですが、随分若い人がたくさんいるなど、あるいはタスであったり、はぎ苑はあんまりいらっしやらないのかな、若い人が結構いると。たまたま声をかけますと、「免許とりに来てるんです」と、「東京から来ました」という若い人たちがいらっしやるんで、やはり前々から佐々木議員からもお聞きしてましたけども、将来「自分の第二のふるさとだ」と言っておられるような方もいるんだそうですね。ここで免許とって、だから「長井行ったことある」と、「あそこはいいところだ」ということを言っておられる例えば国の方の省庁に勤めてる人などいると。そういう意味では長井の応援団になる人だと思ってますんで、何らかの歓迎の…。親睦会してあげるのもなかなか難しいとすれば、気楽に長井のまちを楽しんでいただけるようなそういった工夫もしなきゃいけないなど。自動車学校の方では、自転車とか貸してあげたりとか、あるいはテニスコートとかでテニスをさせてあげたりとか、いろんなことを用意してるようで

すが、ぜひ自動車学校に限らずそういった形で長井にいらしてる方に対してより長井を好きになってもらえるような取り組みをぜひきちんと検討してまいりたいというふうに思います。

○町田義昭議長 11番、大沼 久議員。

○11番 大沼 久議員 そのような取り組みに積極的になってほしいと思います。

また閉塞感に戻るわけですけども、今回の選挙で市長がお訴えなされてることが市民にどれだけ伝わったと思いますか。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 残念ながらほとんど伝わってないんじゃないかなと思っております。リーフレットとか新聞も1万以上用意しましたが、かなり残っております。あとやはり私も通常職務に専念しなきゃいけないということで、夜は夜で日程が入ってたりしたもんですから、今までできなかったというふうに反省してるところでございます。

○町田義昭議長 11番、大沼 久議員。

○11番 大沼 久議員 先ほど壇上でも余計なことと言ってしまったんですが、それを危惧してるわけですけども、恐らく決起大会に行った人しか持ってないと思います。同じ議員の中でも知らない人が結構おりました。11人の支持議員団がいるんですけども、その中でも討議がなされなかったわけです。こんなことではやはりどこか安心感があり過ぎて心のすきが出るんじゃないかなろうかと。

特にがんばろう長井新聞ですか、あの下にやり残したこと書かれてるんですね。1期中にやり残したことあんなにいっぱいあったんでは、本来ならば選挙あれば2期目担うの困難じゃないですか。

それと先ほどスライドの話言ったんですが、齋藤 弘前知事はスライドを使って講演会やりました。だれも白けました。対立候補の吉村現知事は、「温かい政治」と言ったんです。対話

がないと温かいことありますか。だから選挙始まる前だったら私言いたかったんですが、対立候補いないということで私たちにも責任があると思いますけども、「そのスライドで物をするをやめろ」と私は言いたかったんです。そうでなくて面と向かって対話で、それこそ市長が標榜する車座座談会を徹底してやると、このことがなぜできないんですか、お聞きいたします。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 まず、なぜできないかということですが、私はパワーポイント、スライドを使って説明するというのは今後も続けたいと思っています。それと意見交換は別です。ですからできるだけその時間を短くして、その後いろんなことで意見交換という形を座談会ではとっております。

ただ、今行ってるのは要望のあった地域への座談会ですので、必ずしもすべての地区で話し合いをしてるということではないと。あと車座集會みたいなものも最初の2年ぐらいはいたしましたけども、なかなか公務が厳しくてできない。大沼議員からさきの議会でも言われましたが、例えば長寿祝った色紙、たかが色紙なんでしょうけども、やっぱり250枚とか300枚ぐらい書くわけです。書く時間がないんですよ、本当に。それぐらい時間がなかったということで、私としてはもう少しきめ細かく2期目はやりたいと。

あとがんばろう長井新聞でやり残したことこんなにあったんではだめだろうということなんですけども、やったことも見ていただければわかるんですが、これだけのことをやりました。しかし、普通公約というのはすべてのことを出すわけじゃないですか。例えばやりたいことを1つ、2つでは不満が出ますよね。いや、教育はどうするんだとか、あるいは建設関係の快適な住環境はどうするんだとか、文化をどうするのか、

スポーツはどうするか、そして大切な福祉とか医療、介護はどうするんだ。ですからすべてのことを出すわけですね。それから今回も10の公約というのを outsizing させていただきましたが、これは市報とかで自分のコーナーがありますので、こういうことを考えてるということについてはぜひこれから紹介させていただきたいと思いますが、あとは後援会も、自分の後援会、ちょっとこういう場では恐縮なんですけども、そういった後援会の中でも総会等とか政策に関しての意見交換会をこれから開きながら、そしていろいろ意見をいただいて自分の考えをアピールしていきたい、PRしていきたいと思っております。

齋藤前知事が選挙のときスライドを使って講演したということは私知らなかったです。私は……。

(「パネル」の声あり)

○内谷重治市長 パネルですか。パネルはたしか使ってたかもしれないです。

私は、この間の総決起集會には使う気もありませんし、その場と地域の人に、市民の皆さんに市の実情を、やっぱり情報を公開したいんです。それについてはやっぱり口頭だけではなかなかわかりにくいということで、より丁寧に資料を見ていただいて、そしてスライドを見ていただいて市の実態、あるいは市民の皆様からご協力をいただいてこれだけよくなりました。しかし、まだこういう課題はありますということをやはり伝えていくことは非常に重要だと思いますので、そういった意味ではスライドは非常にわかりやすいということで私は好評だなというふうに思っております。ですから悪いところは改めながらも今後そういった形でぜひ市民の皆さんに市の情報を丁寧にお知らせしていきたいと思っております。

○町田義昭議長 11番、大沼 久議員。

○11番 大沼 久議員 見解の相違だと思いま

すけども、私は原理原則を破ってはならないと思うんです。市長は、多忙です。したがって、どんな激務の間を縫ってでも自分の訴えることは市民に丁寧に訴えていくという姿勢は持たなければならぬと思います。したがって、市長の言葉から多忙ということが、激務ということが出てくること自体私は納得いきません。そういう意味におきまして質問に対する答弁は要りませんので、私の考えはそのとおりでありますので、以上で質問を終わります。

谷口栄子議員の質問

○町田義昭議長 次に、順位7番、議席番号5番、谷口栄子議員。

(5番谷口栄子議員登壇)

○5番 谷口栄子議員 おはようございます。

12月定例会に一般質問させていただきます。しばらくのご清聴よろしく願いいたします。

通告しております次の3点について質問させていただきます。答弁は、市長、健康課長、建設課長、企画調整課長、商工観光課長、農林課長をお願いいたします。

初めに、内谷市長の2期目の無投票当選おめでとうございます。

市長は、上杉鷹山の格言、自助、互助、扶助の三助の精神で日本一幸せに暮らせるまちを目指し、全力を尽くされるご決意です。全員参加型の市政、女性が生き生きと元気で、若者が夢を抱き、子供たちが健康で笑顔あふれるまち、お年寄りに優しく、働く人々が幸せを実感できるまちづくりの実現を目指しておられます。健康に注意されて頑張ってほしいと思います。

ことは米価が下落し、農業者の苦悩は深刻です。民主党農政の根幹である戸別所得補償制度が下落の一因と指摘され、鹿野道彦農林水産

大臣が農家への所得補償にかかわる規模加算について来年度から導入したいとの方針を示したという11月20日の山形新聞夕刊を見て現場には大変不安が広がっております。「TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加を前提とした政策だろうが、年々高齢化が進む中だれが規模拡大に励むのだろうか。現実に日本農業を守り支えているのは、中小農家であることをしっかり見きわめていただきたい」と農業者は心から叫んでおられます。市場に投げ出された経営基盤の弱い農業は、もう我慢の限界で、中小農家を守る展望こそ必要と訴えておられます。

それでは、質問に入ります。1点目、乳がん、子宮頸がん検診受診率の向上についてであります。

東北6県の公明党女性局代表で昨年5月29日、厚生労働省に渡辺孝男副大臣を訪ね、子宮頸がんの予防ワクチンの早期承認と予防接種に公費助成を求める厚生労働大臣あての要望書と約102万人の署名を手渡してまいりました。

女性局では、昨年4月上旬から5月にかけて署名活動や医師らを講師とした健康フォーラムを東北で78会場開催、山形県でも13会場、長井市ではグランドホクヨウ長井を会場に山形市の井上聡子女性クリニック院長を講師に女性の健康フォーラムを開催し、井上院長から乳がん、子宮頸がんの検診の大切さをスライドを使い講演していただきました。

また、女性のがん対策拡充を求める要望書は、各東北6県の知事に対しても署名簿と一緒に提出しました。

山形県の吉村知事にも代表の皆さんと県庁を訪ね、12万2,000人の県内の署名簿を昨年5月22日、提出いたしました。このとき吉村知事は、知事の友人が乳がんで亡くなったことを話してくださり、検診の大切さをしみじみと語っていただきました。

県内13会場での健康フォーラム開催会場に知